

令和4年度学位記授与式式辞

令和5年3月18日（土）

アルビス小杉総合体育センター

本日、新田富山県知事を始め多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和4年度富山県立大学学位記授与式を挙げることは、誠に喜びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育と研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられる工学部、看護学部並びに大学院工学研究科、555名の卒業生、修了生の皆様とご家族に、今日の卒業、修了を心よりお慶び申し上げます。

また、新型コロナウイルスの感染が確認されて以来、およそ3年にわたって、皆さんに数々の不便をお願いしましたが、状況を踏まえた皆さんの対応に改めて感謝を申し上げます。

今日は私たちにとって大切な日です。この場を借りて、皆さんがこの日を迎えるまでの長い道のりを振り返り、皆さんがこれまで築いてきた成果を称えたいと思います。皆さんが通った道は、時には険しく、時には曲がりくねっていましたが、しかし、その中で皆さんは自分自身を見つめ、努力し、挑戦し続けました。その結果、皆さんは今日、この栄誉ある日を迎えることができました。心からおめでとうございます。

今、直前に、私が申し上げた「今日は私たちにとって大切な日です」からの文章は、chatGPTに、「卒業式の式辞を作って」と入力して、出力された文章です。実は、卒業式の式辞をAIに手伝ってもらおうと目論んだのですが、生成された文章を妻に見せると、「あなたらしくない、心に引っ掛からない定型的な式辞だね」、と言われてしまいました。ではと、「卒業式の式辞を“心を込めて”を作って」とAIに入力してみました。

さらに、加えて、AIに、「富山県の課題を教えて」、「ソートするプログラムを作って」、などと入力すると、しっかりとした文章やプログラムが返ってくる。私が今年で最も驚いたことでした。文章を要約するソフトウェアなどこれまでもありましたが、このAIの文章を作成する能力には驚愕しました。

今から10年前の2013年に、オックスフォード大学のフライ先生とオズボーン先生が、「雇用の未来：コンピュータ化で仕事はどれだけ影響を受けるか」というタイトルの論文を発表しました。その中で、10年後にAIに置き換わる仕事とその確率が計算されていて、皆さんに関係しそうな仕事で、置き換わる確率の小さいもの、つまり。人からAIに置き換わりにくいものから順に、看護師1%、機械技術者1%、情報科学者2%、化学技術者2%、環境技術者2%、電子技術者3%、作家4%、コンピュータプログラマー48%、テクニカルライター89%と続きました。

私は、この情報をもって、みなさんの危機感を煽ろうとしているのではなく、コンピュータプログラマやテクニカルライターが、なぜAIに置き換わると計算されたのか、皆さんと共に考えたかったので、今日ここに話題とします。皆さんの中には、情報科学者はAIに置き換わらないにも関わらず、コンピュータプログラマがなぜAIに置き換わるのだらう、と考えた人がいるかもしれません。私の考えは、アルゴリズムやフレームワークを最初に作るには人の知恵が必要だけど、一旦作ったプログラムは再利用可能なので、それらを組み合わせるのはAIの得意とするところだというものです。また、文章を作る仕事についても同様で、作家が創造的に文章を作成するのに対して、取扱説明書などを書くテクニカルライティングは再利用可能な定型的な内容や言い回しが多いので、テクニカルライターがAIに置き換わる確率が89%にもなったと考えています。

人からAIに置き換わる職業が発表されてちょうど10年後、2023年の今年、オズボーン先生へのインタビュー記事を2023年2月6日の毎日新聞インターネット版で読むことができます。「仕事の半分が奪われる」予測は当たったのか？ AIの権威に聞く」というタイトルの記事でした。人からAIに換わるという予想が正しかった例としては、「大規模言語モデル」、伸び悩んでる例として「自動運転の実用化」などが挙げられていました。

大規模言語モデルでは、この10年間で、コンピュータが扱えるデータの典型例である文章データを、コンピュータが大量のデータとして蓄え、整理し、その知識の範囲で、コンピュータが質問に答えられるまでになったわけでしょう。一方で、幸福感などの感情の機微については、ひとの感情の正確な計測手段がなく、感情をコンピュータの扱えるデータにすることができないので、個々人の幸福感はAIが扱えない領域だと思っています。

ところで、みなさんは小学校から大学の前半までは主にAIが学習するように、教科書などをもとに自らの知識を増やし、整理して使える、そのような勉強をしてきたのではないのでしょうか。試験でよい点をとるとは、設問に対して、頭の中の正確な知識を、正確に適用できることです。ところが、知識を再利用し、組み合わせて答えを出すなら、人は火星に行けるのかと問うても、食料、水、酸素、燃料の確保などの課題は指摘できるけど、ではどういう方法で火星に行くのか、答えは出ない。だれも解決したことがない課題だからです。私は皆さんに、歴史的・世界的に初めて挑戦する課題、だれも解決したことのない課題、例えば、少子高齢社会や持続可能社会などがもつ社会的な課題に挑戦し解決してもらえると期待しています。そのために、学部4年生や大学院では未解決な課題をどう解決するのか経験したことと思います。学部や大学院で経験した課題は一例にすぎませんが、その経験は次の課題解決にきっと生きるはずです。その経験とは、知識として広く知られていることを調べ、仮説をたて、立証するためにこんな方法が使えるのではないかと考えたりブレストした経験です。時として、はまって抜け出せないと感じたことがあったかもしれませんが、教員や仲間とブレストすると、深い井戸も、トンネル効果で意外と抜け出せたりした経験はないのでしょうか？ この経験を生かせば次の課題解決に取り組めるものと、教員は皆、期待をしています。

少子高齢社会の中で社会や生活の質を維持し、幸福で持続的な社会であるためには、生産性や付加価値の向上が不可欠だと指摘されています。再利用可能で定型的なことの一部はAIが行い、これまで解決されていない社会課題を皆さんが解決して、一人一人に幸福感がもたらされる、そんな社会や家族との生活を思い描きたいものです。

最後になりましたが、卒業式でこれまでもお願いしてきたことを3つ簡単にお話いたします。

一つ目は国際性を磨いてください。コロナの影響で海外とのコンタクトの機会がなかったかもしれませんが、私たちの社会はもはや国際的な関係なくして存続できなくなっています。言葉を流暢に話せるより重要なことは、自分自身が相手に伝えたいものをしっかり持つことです。伝えたいものがあれば、最初は勇気がいるかもしれませんが、コミュニケーション能力は時とともについてきます。

二つ目は多様性の理解です。世界には、様々な民族や宗教、価値観があり、対立が争いに発展する例を私たちはたくさん見てきました。平和で安定した社会のために多様性を理解した上で、私たちにできることがあるはずですよ。

三つ目は卒業生としての富山県立大学への愛着です。在学中につくった友人や教員とのネットワークは、社会に出ても価値のあるものですよ。仕事で行き詰ったら、大学をたずねて相談してみてください。富山県立大学の教員は、解決策を示したり、アドバイスができます。

卒業、修了する皆さん、本日は本当におめでとうございます。皆さんは、地域社会や、日本や、世界を変革する力をもっています。天命を知る力、天命を知ったときに応えられる力を身につけるよう、これからも研鑽を続けてください。皆さんの、価値と独創性のある活躍を富山県立大学の教職員はみな応援しています。皆さんとご家族の幸せを祈りながら、私のお祝いの言葉を結びます。

令和5年3月18日

富山県立大学学長 下山勲